

3 重点エリア

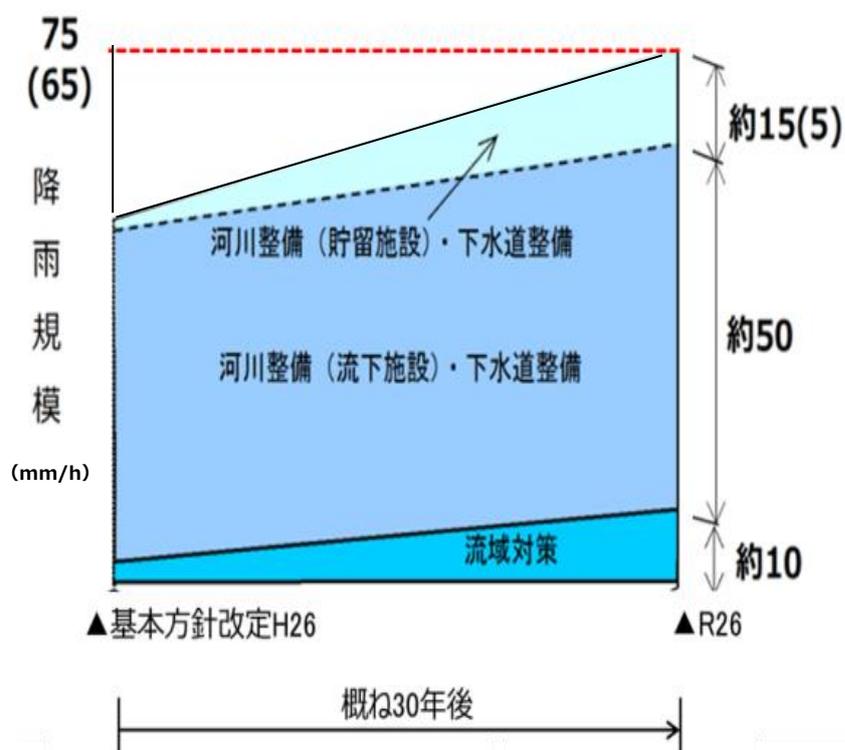
3-1 重点エリアの目標整備水準

都における豪雨対策は、平成 26 年に改定した東京都豪雨対策基本方針に基づいて、浸水被害や降雨特性などを踏まえ、甚大な浸水被害が発生している地域について重点エリアとして対策強化流域と対策強化地区を選定し、概ね 30 年後を見据え、目標整備水準を示して取り組んでいます。

<目標整備水準>

- ・河川：流下施設（河道等）や貯留施設（調節池）の整備により、流域対策を含め、区部では時間 75 ミリ、多摩部では時間 65 ミリの降雨に対し、河川からの溢水を防止
- ・下水道：時間 50 ミリ降雨対策を進めるとともに、流下施設（下水道管）や貯留施設（調整池）などの整備により、最大で時間 75 ミリの降雨に対し、浸水被害を防止

<対策強化流域の役割分担のイメージ>



3-2 重点エリアの取組

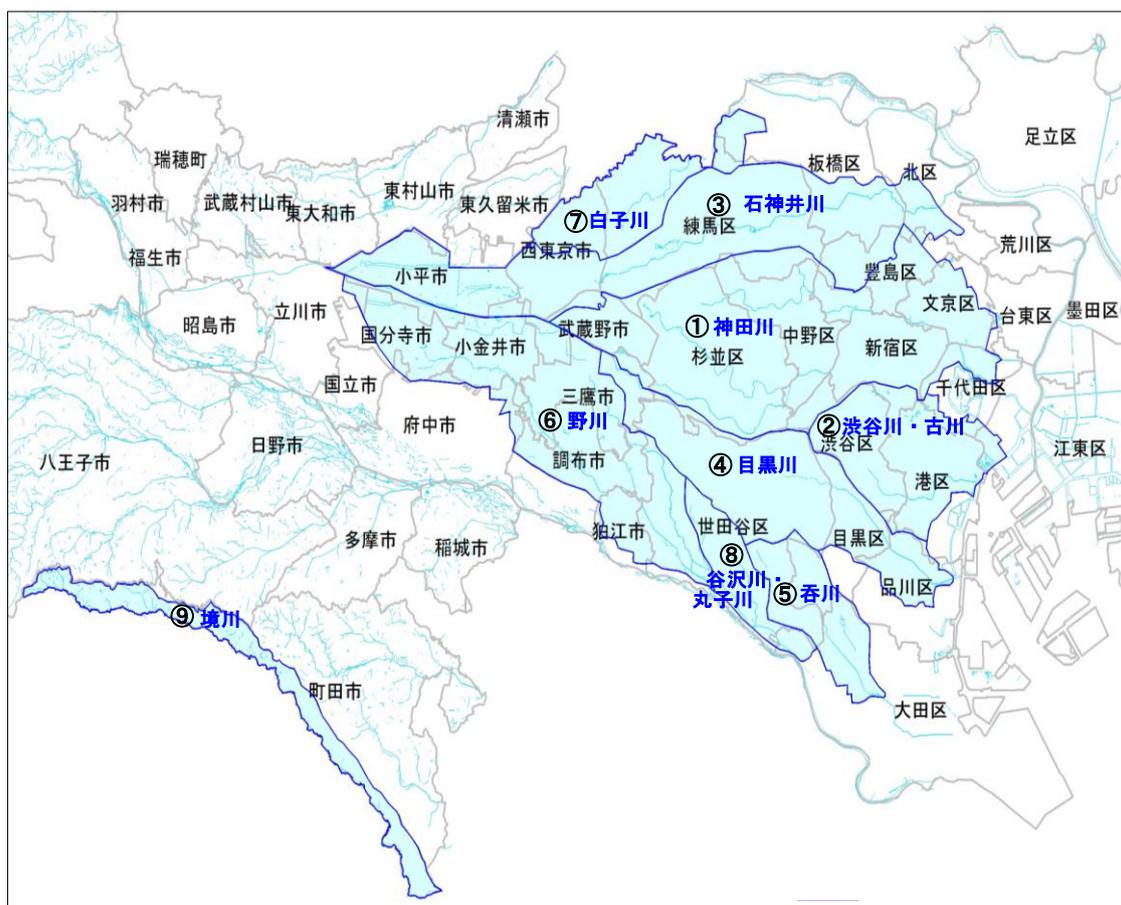
重点エリアには、主に、河川流域を想定した「対策強化流域」と、主に下水道流域を想定した「対策強化地区」の2つの地域があります。

対策強化流域では、河川整備による流下及び貯留とあわせて流域対策を進め、対策強化地区では、下水道整備による流下と貯留を進めることにより、目標整備水準を達成していきます。

3-2-1 対策強化流域

対策強化流域は、過去の浸水被害状況（浸水棟数、被害額）、降雨状況（豪雨の発生頻度）、流域特性（人口、資産額などの被害ポテンシャル）、対策状況（河川整備、下水道整備などの対策状況）を評価して、特に対策を強化すべき流域として9つの流域を選定しています。

<対策強化流域>



- ①神田川流域、②渋谷川・古川流域、③石神井川流域、④目黒川流域、⑤呑川流域、
⑥野川流域、⑦白子川流域、⑧谷沢川・丸子川流域、⑨境川流域

3-2-2 対策強化流域の目標と現状



時間 50 ミリ降雨に対応する中小河川の整備

【目標】中小河川約 324km を整備する

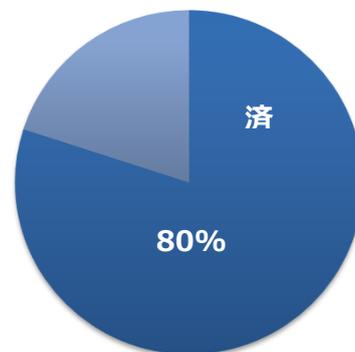
【現状】中小河川約 218km が整備済

調節池：約 256 万 m^3 が整備済

分水路：8 施設が整備済

※対策強化流域以外の整備を含む

(平成 30 年度末)

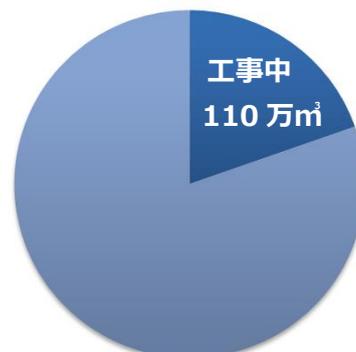


時間 75 ミリ、65 ミリ降雨に対応する調節池の整備

【目標】調節池約 560 万 m^3 を整備する

【現状】調節池約 110 万 m^3 が工事中

(平成 30 年度末)



雨水流出抑制対策

【目標】貯留浸透施設約 654 万 m^3 を整備する

【現状】貯留浸透施設約 398 万 m^3 が整備済

(平成 29 年度末)

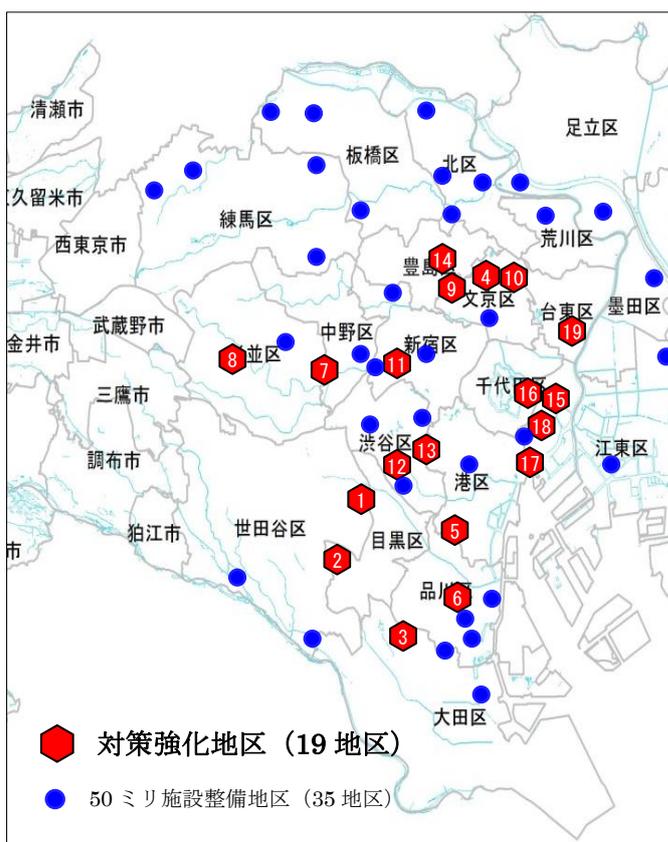


対策強化流域にて区部時間 75 ミリ、多摩部時間 65 ミリ降雨に対応

3-2-3 対策強化地区

区部では、全域で時間 50 ミリ降雨に対応する下水道施設を整備することとしております。くぼ地や坂下など浸水の危険性が高い地区等を優先し、50 ミリ施設整備地区として 35 地区選定しています。それに加え、対策強化地区は、浸水被害の発生状況、施設の重要性や浸水に対する脆弱性（大規模な地下街など）、下水道施設的能力評価（下水道幹線の流下能力）、対策状況（下水道整備、河川整備などの対策状況）を評価して選定した特に対策を強化すべき地区として 19 地区を選定しています。

<対策強化地区>



75 ミリ対策地区
①目黒区上目黒、世田谷区弦巻
②目黒区八雲、世田谷区深沢
③大田区上池台
④文京区千石、豊島区南大塚
50 ミリ拡充対策地区
⑤港区白金、品川区上大崎
⑥品川区戸越、西品川
⑦中野区東中野、杉並区阿佐谷
⑧杉並区荻窪
⑨文京区大塚【整備完了】
⑩文京区千駄木
地下街対策地区（75 ミリ対策）
⑪新宿駅【整備完了】
⑫渋谷駅西口【整備完了】
⑬渋谷駅東口
⑭池袋駅【整備完了】
⑮東京駅八重洲口【整備完了】
⑯東京駅丸の内口
⑰新橋・汐留駅【整備完了】
⑱銀座駅
⑲上野・浅草駅

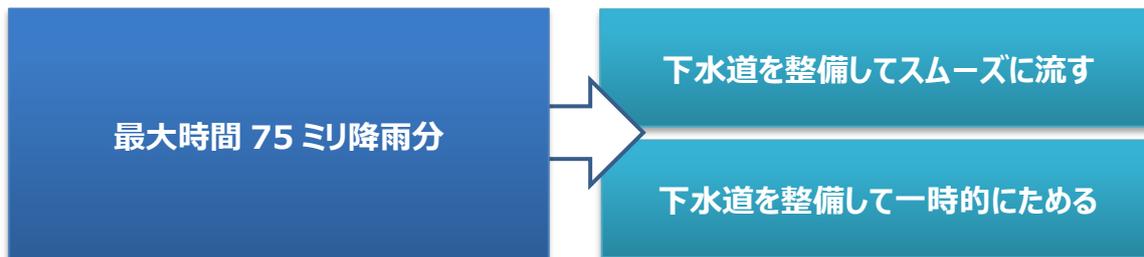
<地区の選定基準>

- ・ 75 ミリ対策地区：一定規模※以上の床上浸水が集中して発生した地域
- ・ 50 ミリ拡充対策地区：床上浸水が一定規模に満たない地域のうち、既に浸水対策や下水道の再構築として施設整備を計画している地域
- ・ 地下街対策地区：浸水被害の影響が大きい大規模地下街

（75 ミリ対策）

※一定規模：平成 25 年に発生した 1 回の豪雨（7 月 23 日豪雨、8 月 12 日豪雨、8 月 21 日豪雨、10 月 16 日台風 26 号）で床上浸水が 30 棟

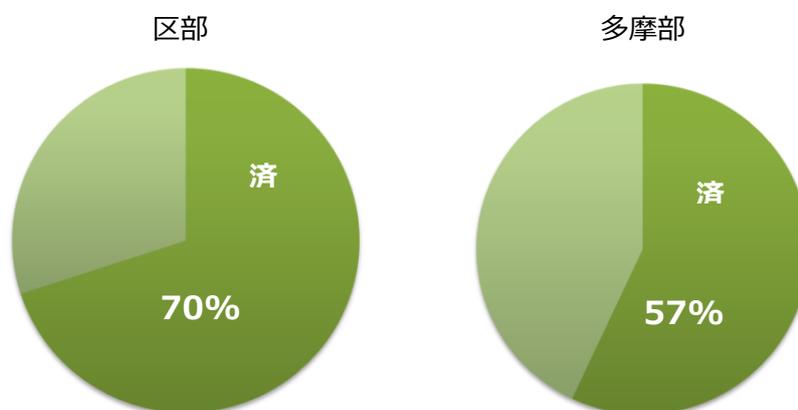
3-2-4 対策強化地区の目標と現状



時間 50 ミリ降雨対策（区部では、くぼ地や坂下など浸水の危険性が高い地区等を優先し整備）

【目標】区部 100%、多摩部 100%

【現状】区部 70%、多摩部 57% ※対策強化地区以外の整備を含む（平成 30 年度末）



最大時間 75 ミリ降雨対策（甚大な被害が発生している地区等で整備水準をハルアップし整備）

【目標】19 地区

【現状】6 地区整備完了（平成 30 年度末）



対策強化地区にて最大時間 75 ミリ降雨に対応

一度施工した下水道施設について、下水道管を再度増径することや、同じ道路下に複数の下水道管を施工するなどといった段階的な能力の向上は著しく困難であることから、「東京都における総合的な治水対策のあり方について(61 答申)」の長期計画を踏まえて、下水道施設による時間 75 ミリまでの対応を図ります。